

行政視察報告書

貝塚市議会議員 南野敬介 様

令和 6 年 2 月 16 日

小谷 真章

令和 6 年 2 月 14 日 熊本県熊本市

令和 6 年 2 月 15 日 熊本県大津町

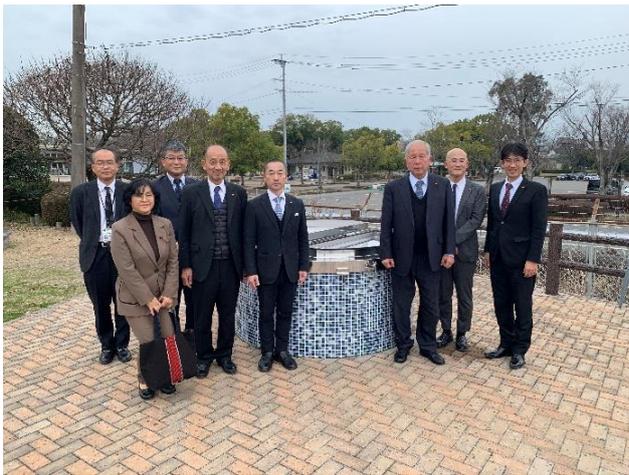
【2 月 14 日】熊本市健軍水源地を行政視察しました。

13:30～15:30 熊本市健軍水源地

会派自由市民(食野議員・田畑議員・出原議員)と私、小谷の 4 名の参加でした。

地元熊本市議会議員の筑紫市議の計らいにて環境局 環境推進部 水保全課に現場視察させていただき久留米市議会議員の長野市議も同行していただきました。熊本市は市民約 74 万人の水道水源を 100%天然地下水でまかなう、日本一の地下水都市です。

熊本市の水道は、大正 13 年(1924 年)の通水開始以来、水源を 100%地下水でまかなっていることが大きな特徴です。



市内 21 箇所の水源地から常に天然地下水が供給されており、その最大の水源が「健軍水源地」です。この水源地だけで市の 1/4 にあたる 25 万人以上の水を賅うことができる計算になります。

さらに驚くことに、11本の井戸のうち7本が自噴しています。中でも5号井(写真)は、日量約1万5千m³の天然地下水が自然の力で湧き出しており、日本最大級の水道水源の井戸とのことです。健軍水源は昭和23年(1948)2月に通水を開始し、以来、熊本市のウォーターライフを支えつづけている市民の大切な宝の一つです。



熊本市周辺は阿蘇山の噴火の際に噴出した火山灰や溶岩が、幾重にも堆積した地層があり、自然のフィルター役目を果たしていることから、清冽な地下水を豊かに生み出しているとのことです。こうした地下構造がおいしい水を作っています。参加メンバーは汲んだばかりの地下水を直接飲ませていただき、皆一様に水の甘さに驚きました。

この、豊富な水源があることで、上流では半導体工場が誘致されやすく、産業振興に結び付いていますが、一方で上流で進むメガソーラー開発への規制(参照、大津町視察)、工業排水の取り扱いなど環境問題への取組が重要であることを学びました。

フリースクール・レインボーの視察については、諸般の事情により建設予定地の見学のみになりました。その予定地はごく一部の近隣住民の反対運動がありナーバスな部分があるので、今回は現地での視察が困難になったのがその理由です。

【2月15日】熊本県大津町にてメガソーラーを行政視察しました。

10:00~12:00 熊本県大津町役場 メガソーラー設置場所

前日に引き続き会派自由市民(食野議員・田畑議員・出原議員)と、私、小谷の4名の参加でした。

大津町の位置と地勢

大津町は熊本市の東方約19キロメートル、阿蘇山との中間に位置しており、別府・阿蘇・雲仙などの国際観光ルートの路線上にあります。



阿蘇外輪山西部に連なる広大な森林、原野地帯とそれよりゆるやかな傾斜をなして広がる北部畑地帯、阿蘇山を源として東西に貫流する白川の豊かな流れによって南部平野は肥沃な水田地帯を形成しています。

大津町は国道 325 号(久留米～阿蘇～延岡)と国道 57 号(長崎～雲仙～大分)が縦・横断し、熊本空港、九州縦貫自動車道熊本 IC を近くに擁する交通条件に恵まれた田園産業都市です。人口は 3 万 6 千人を突破し、近年ますます増加を続けています。

大津町では近隣市町で相次ぐ半導体工場の誘致に伴い、電力需要もあり現在 10ヶ所以上のメガソーラーが設置されており、災害

や水質汚染対策を学びました。特に大津町では国に先んじて独自で規制条例を策定しており、大変参考になりました。

以下、大津町との質疑応答になります。

Q 町内の発電所稼働状況及び今後の計画は？

A 現在 13 のメガソーラーが稼働中、3 のメガソーラーが建設中です。

Q 太陽光発電所誘致がもたらした町への好影響・雇用拡大について

A 地元住民による草刈り等をお願いされたということがあります。発電設備は、ほとんど無人で運営されるので、顕著な雇用増はありません。

・企業誘致促進について

A あくまでも推測ですが、太陽光発電も企業誘致の 1 つの要因かもしれません。



・町収入の増加について

A 昨年度メガソーラー関連の税収は1億8000万円でした。

Q 住民の環境問題への意識の高まり等について

A 平川下流域の住民は、以前に豪雨水害に遭われ、他の地域より防災意識が高まっていたので、反対署名が出されています。

Q 太陽光発電所による環境への影響

※メガソーラーシステムによる森林伐採問題、地滑りや土砂崩れなどの土地問題、太陽光パネルの放置・不法投棄問題、土壌汚染、景観破壊 等が懸念されますが。

A 大津町では、太陽光発電事業地に隣接した農地等に鳥獣被害が増えたとの声を聞きます。過去には太陽光建設期間中、梅雨時、土砂等を含んだ雨水が一部県道に流れたことがありました。

Q 条例制定や町における管理部署・人員配置などの対策

A ※具体的に職員の方から書面等でご回答いただきましたが、詳細にわたりますので、割愛します。今後、貝塚市で規制条例などを検討する際に活かしていきたいと思えます。

